

○永倉委員長 お暑い中、皆さんお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。きょうは本年度第2回目ということのようですが、専門委員会を開催したいと思います。

本日の進行につきましては、次第にありますように、親子ミーティングの開催結果の報告、平成30年度さしがや保育園アスベストシンポジウム、これは仮称ということですが、この開催についての内容をきょうは御議論いただきたいと思っております。その後、協定書の名義変更についても御説明いただこうと思っております。

最初に委員の出欠状況、配付資料等について、事務局から御説明をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、本日の委員の出欠状況ですが、樋野委員と塩見委員からは御欠席の御連絡をいただいております。また、幹事のほうでは石原保健衛生部長が欠席という御連絡になっておりますので、よろしく願いいたします。

また、配付資料ですが、次第のほかに、今回は資料番号は通しでつけていますけれども、資料第5号からのスタートになります。

資料第5号としまして、「さしがや保育園アスベスト親子ミーティング開催結果について」が、A4の1枚のものです。

資料第6号としまして、シンポジウムの「企画書（案）」です。

資料第7号としまして、「協定書の名義変更について（案）」です。

以上3枚の資料になっております。大丈夫でしょうか。

○永倉委員長 よろしいでしょうか。御確認いただけましたか。

そうしましたら、次第の最初のさしがや保育園アスベスト親子ミーティングの開催結果について、これも事務局から御説明をお願いいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、資料第5号に基づきまして、さしがや保育園アスベスト親子ミーティングの開催結果について御説明いたします。

7月1日に区民センターの3階の3D会議室で開催をいたしました。

参加者につきましては、専門委員会の委員、また、幹事のほか、子供、保護者の方で11名。そのほかに区議会議員、大学の先生などに参加いただいております。また、藤沢市のほか、地方の方々からも参加がありました。そのような状況でございます。

実施内容としましては、第1部は「アスベストとは」ということで、文京区から当時の経緯やその後の文京区の取り組みについて説明した後、永倉委員長からアスベスト対策についての正しい知識と準備の必要性の講義をいただいております。

また、第2部では、愛知教育大学の榊原先生から、アスベスト教育についてということでの講義をいただきました。

第3部としましては、自由歓談という形になっております。

今回は参加人数も比較的多く、盛況であったと思っております。また、そこでアンケートもお答えいただいております。そういった中でも、全般的に全ての方に「よかったと思う」という御回答をいただいたところと、会場の雰囲気についても「リラックスして参加

できて良かった」「交流が深まり、盛り上がった」という御意見をいただいたところでございます。

裏面を見ていただきまして、今後の課題ということで、アンケートの中でも若干前置きが長いといった御意見をいただいております。後段のところでは講演や昨年度の親子ミーティングの映像鑑賞等、座って聞いているだけでの時間が長かったのかなど。時間配分については今後改善の余地があるのではないかと捉えております。こちらについては今後検討してまいりたいと思っております。

親子ミーティングの開催結果についての説明は、以上でございます。

○永倉委員長 事務局が非常に頑張ってくれたおかげで、非常に盛況な親子ミーティングができたと思っております。参加された委員の方については、何か感想等がありましたら、ぜひお聞かせいただければと思います。

毛利委員、お願いします。

○毛利委員 私は当事者というか、お子さんたちと話ができただけの機会だったので、とてもいい機会になったということは思いました。お子さんたちはまだ少しぴんとこないのだという話もあったのですが、最後、感想の中であったとは思いますが、こういうミーティングをきっかけとして理解が深まって、今度は自分たちが本当に当事者となってこの先進めていかないといけないのだという感覚も、少しは持っていたいただけたのではないかと、そういった意味でとても意義のある会だったと思っています。

○永倉委員長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

長松委員、お願いします。

○長松委員 今回は3回目、事務局の方とうまく連動して準備がすごくうまくいったのがよかったと思います。長谷川さんを中心にとっても頑張ってくださいました。

それはよいのですが、その一方で、1年目に来た人が2年目に来ると、同じことを聞いていかなければいけないというのが1時間近くあって、せっかく外からもう一人来てくださった人が、こんなにずっと座ってばかりで途中で帰ってしまったのは、確かに少し不手際だったかなど。私も含めて何とかかなと思ったなら何とかならなくて、みんなの話が長かった。今度するときは、事前に細かいプログラムをもっと詰めなければいけなかったのだと思います。一つ一つはいいのだけれども、それが来た方たちにまとめてどんと1時間座らせるのは、期待したものではないということがよくわかりました。ですから、それを新しく来る人とずっと来ている人が混在する来年度のプログラムをどうするかに生かすべきだと思いました。

その一方で、支援組と言うのですか、藤沢市のご家族とか、榊原先生とか、永田先生とか、外部の一緒に頑張ってくれる人ができてきたというのは、成果でありつつ足かせも生まれてくるのだと思います。これが感想であります。

毛利先生と樋野先生に出ていただいたのはとてもよく、私たち保護者もうれしく思いま

した。ありがとうございます。

○永倉委員長 私からも感想ということで申し上げますと、子供たちがみんなすくすくと元気に育っているなということで非常に安心したということと、まだ早いですがけれども、子供たちはこれからは自分たちが親になっていくのだろうなということで、毛利先生が会場でお話くださった、親たちが自分の子供を守るためにどのような戦いをしたか。これは大げさな言い方になるのですがけれども、どうやって子供たちの安全や健康を守ろうとしたかという記録を伝えることは非常に重要だというお話を毛利先生がしてくださったのですが、そのとおりでなと思うのです。つまり、アスベストについての病気がどうであるということも科学的、医学的に非常に重要なことだと思うのですが、そのために大人たちがどう頑張ったかというか、どういうように、どのような経路をたどってここまでたどり着いたのかということをお子に知ってもらい、成長した子供に知ってもらい、子供たちが今度自分が親になったときに、それを自分の子供たちに実践することが非常に重要なことかなと私は思いました。そのような意味でも開催した意味があったと思います。

反省点はたくさんあるのですが、そういう反省点を乗り越えて今後も続けていきたいと思っておりますし、これはこの件だけではなくて、もっと広く使えるようなツールにしていけたらと思っております。

ほかに御参加いただかなかった先生でもいいのですが、何か御質問や御提案や御議論などがあつたら、いかがでしょうか。

○椎名子ども家庭部長 私は参加が2回目になりましたけれども、今回なれてきた部分があつて、また、長松委員が相当活躍されたと思うのですが、保護者の方の意見の中にもありましたけれども、子供さんがちょうどその世代なのと、職員も若い世代が入ってきて、若い職員、例えば長谷川さんと意思疎通されたりだとか、新たに話が弾んだりして、その辺はすごくよかつたかなと感じました。

○永倉委員長 区の職員さんも、いわば我々よりも子供たちのほうが年齢が近いわけですし、共通の認識でいろいろ今後やっていけるというか、思いを同じくできるお立場かなと思つたところです。私もその印象はありました。

ほかにございますか。

こういったことを踏まえて、申し上げましたけれども、今後も引き続きこういったことが行われていくことを期待したいと思います。

そうしましたら、次の議題に行きます。早目に進んでいるのですが、平成30年度さしがや保育園アスベストシンポジウム、これはまだ仮の名称ということなのですが、これの開催について少し内容を詰めたと思いますので、事務局のほうから御説明をお願いいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、資料第6号で説明したいと思います。こちらは来年度開催を予定しております、さしがや保育園アスベストシンポジウムというところについての

企画書的なところで、たたき台ということで、こちらの事務局で作成したものでございます。

名称としましては「平成30年度さしがや保育園アスベストシンポジウム（仮称）」としております。

実施主体のところですが、主催としては、文京区さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会、この会議体と文京区を並べて書かせていただいております。

実施目的のところですが、曝露より20年を迎えるに当たりまして、当事者である元園児の子供たちの多くが成人をすることから、当時の出来事を伝え、今後は子供たちが主体となっていくことを意識するきっかけとして開催をするという形で、目的のほうを今のところ書かせていただいております。

開催日時なのですが、2日ほど押さえております。前回の委員会で7月7日が出たと思うのですが、そこは会場が押さえられませんか、難しいところから、今のところこの2日を案として御提示させていただいております。

会場は、このシビックセンターの26階にスカイホールというところがございます。こういったような写真でイメージしていただければよいかと思いますが、こちらも机の並べ方にはよるのですが、大体60名から100名程度が入るような部屋になっております。こちらを一応仮押さえができておりますので、その部分でこの2日間を仮として提案させていただいているところでございます。

対象としましては、さしがや保育園アスベスト健康対策の対象者、また、一般の区民という形にしております。

7番の開催内容、これは一般的なシンポジウムのプログラムを書かせていただいております。開会から、第1部としては基調講演というところ、また、第2部がパネルディスカッションというところで、ごらんのような進行プログラムとして、たたき台として示させていただいております。

また、裏面をごらんいただきまして、こちらのシンポジウムにつきましては、記録として報告書にまとめるという形にしていきたいと思っております。ある程度の概要がかたまった段階で、区側としては来年度の予算要求という形でしていく必要があります。その一定の想定される経費としては、①から⑤といったところについて、ざっくりですが、こういった経費を算定して要求をするというところで考えているところでございます。これをたたき台にして御意見をいろいろいただければと思っております。

説明は以上です。

○永倉委員長 ありがとうございます。

ただいまの説明について、いろいろ御意見があらうかと思いますが、どうでしょうか。

1から少しずつ進めるか、全体で御意見をいただくか。

まず、名称ですが、いかがでしょうか。そのままという感じではあるのですが。

○長松委員 仮称にしておくというのはどうですか。

○永倉委員長 とりあえず仮称にしておく。

では、それは今後固めるということで、これはとりあえずは予算の申請などの上で必要だということですね。

○大川幼児保育課長 そうです。正式な名称は実際に準備をする段階で決定をしていく形になりますので、あくまで現在は仮称でいいかと思います。

○永倉委員長 わかりました。

では、これは後に固めていくことにいたしたいと思います。

実施主体についてですが、主催、共催、後援ということですがけれども、主催はこの委員会と文京区ということですね。どうですか。

後援ですが、これは当てがあると云ったら変ですがけれども、イメージは何かあるのでしょうか。

○大川幼児保育課長 今のところは特にないので、もし後援というところがあれば、そちらとの調整になろうかと思います。

○永倉委員長 環境省あたりに要請してみるとか、そういうことはどうでしょうか。余り乗ってこないかな。手続も大変だということはあると思います。わかりました。

そうしたら、実施主体については委員会プラス文京区が主催ということによろしいですか。

では、この内容で進めていただければと思います。

実施目的であります。これについても今まで少し議論してきたところですがけれども、このようなところでしょうか。よろしいでしょうか。

長松委員、お願いします。

○長松委員 あとは区民のアスベストに対する啓蒙をどこかに、最後のほうに入れるとか。

○永倉委員長 それを一つ入れていただくということで、区民のアスベストに対する啓蒙という趣旨を実施目的につけ加えていただくということによろしいですか。ほかの先生から何か御意見があれば。

では、そういうことで、つけ加えてください。

4番目ですが、開催日時、これも7月21日か28日ですが、これは決定したほうがよろしいのですか。それともこのままの状態ですばらく。

○大川幼児保育課長 できれば決定をしていただけると。

○永倉委員長 決定をしたほうがいい。

○長松委員 前に6月の一番最後にしようと言っていたのだけれども、6月の一番最後はいろいろ入るから、その前の週になるかもしれないと。違いましたか。

○森委員 一応、私の都合だけですね。

○長松委員 私の都合もそうで、樋野先生も6月を押さえておくと言っていらしたような気がするのですがけれども、7月になってしまったのは何かあるのですか。6月はあいていなかった。7月7日がだめだから後ろへ下がったということでしょうか。

○永倉委員長 今からだと私は丸々あいている気がするのだけれども。

○長松委員 ほかの先生方はいかがなのでしょう。

○永倉委員長 何かありますか。

○東委員 前回、たしか樋野先生が、学会が重なっているなどおっしゃっていたような。それで7日がどうというのははっきり覚えていないのですけれども、たしか学会が幾つかほかの曜日にもあったということをおっしゃっていた記憶があります。21、28がどうだというのは覚えていないのです。もし議事録が残っていればいいのですけれども、恐らく残っていないですね。

○永倉委員長 何かありますか。

とりあえずこの日程のいずれかを各先生方に流していただいて、確認をしてもらうというのがいいのかなど。厳しいですか。

○森委員 もうちょっと前のほうが。

○長松委員 受験の子もいますので。

○森田委員 こちらの都合だけなのですから。

○永倉委員長 前倒しは可能ですか。今、仮押さえしてもらっているということですね。

○大川幼児保育課長 改めて確認をさせていただければ。

○永倉委員長 しないとわからないということですね。

どうでしょうか。この2つはとりあえず押さえられているということですから、この前の仮押さえが可能かどうか。1つ、2つ、6月の終わりごろということでしょうか。

○大川幼児保育課長 6月30日ということでしょうか。

○長松委員 前は、6月30日は樋野先生が私はあいているよと言っていたような気がするのです、私もここはとっておいたのですけれども。

○永倉委員長 6月30日を押さえることは可能かどうかを。

○大川幼児保育課長 はい。

○永倉委員長 それで、メールで。

○長松委員 提案なのですから、この会議は間隔があいているので、早く押さえ、来てくださる方に連絡をしないと、秋まで待たないほうがいいので、もし実質きょう決められなければ、事務局から書面会議というか、それで押さえられていただけないですか。

○大川幼児保育課長 こどもどんどん埋まっていくような状況になっていますので、あしたにでも確認します。

○長松委員 よろしくお願ひします。それで流していただいたら、来てくださる方とか保護者に今から押さえもらったほうがいいと思います。

○東委員 確かに私の手帳を見ると30日がシンポジウムと書いてありますので、多分、前回30日ということ樋野先生とお話をされたのではないのでしょうか。

○長松委員 そうだったと記憶しています。

○東委員 多分30日が樋野先生はあいていらっしゃるのではないですか。

○永倉委員長 では、6月30日を探していただけますでしょうか。では、この3つの候補のうちからということにしたいと思います。ただ、6月30日があいていない可能性もありますから、そのときにはまた調整をしたいと思います。

それと、時間ですが、1時半から3時半。正味2時間。

○長松委員 短いです。

○永倉委員長 もう少し長く。

○森委員 だから、先ほど言った説明の中身とかという話にもよるのですね。

○永倉委員長 余りだらだらやるのもという反省があるから。

○長松委員 でも、内山さんとかみんな来てやるのに、2時間はないでしょう。下の開催内容からもう一回ちゃんと見て、幾ら何でも2時間は自由歓談がなくなってしまうと思います。

○永倉委員長 では、開催内容は後回しにいたしましょうか。いずれにしても開催日時については3つの日程案からもう一度再設定をしていただく。

会場ですが、スカイホール、60から100入るということで、先ほど私のほうでも聞きましたところ、教室の形にでも幾らにでも内容はできるということなので、場所としては演台もあるということなのでこれで十分かと思うのですが、人数がどうでしょうかというところです。60から100。

○長松委員 よいのではないですか。

○永倉委員長 そんなものでよいですか。

○森委員 具体的に言ったら、親の人数はふえても10人ぐらい。多く見ても。40人、50人になることはないと思うのです。

○長松委員 でも、この間狭かったから、広いほうがいいですね。

○森委員 そうですね。

○永倉委員長 あれはあれでいいかなと。ただ、音がなかったから寂しかったですね。

では、場所としてはこのスカイホールでよろしいですか。私は中を見ていないのですが、キャパシティーとしてはこの程度かなと思うのですけれども。このほかに、例えば小ホールだと300ぐらいになってしまうらしいです。300を埋めるのは結構大変なので。

○椎名子ども家庭部長 距離感が、ここだと何となく言ったりとか、よい雰囲気でのいうのは、こちらのほうがよいかもしれないです。

○永倉委員長 余り遠くなってしまうてもよくないですね。では、スカイホールでよろしくをお願いします。

大川幼児保育課長、お願いします。

○大川幼児保育課長 30日が、ここがあいていなかったときには、とれる可能なところは当たってみたいと思います。30日にここがあいている保証が今のところ全然ないので。

○永倉委員長 了解いたしました。では、そこは臨機応変にお願いいたします。

対象についてはよろしいですか。さしがや保育園アスベスト健康対策対象者及び一般区民です。60から100。これは保護者プラス子供たちという意味ですか。

○長松委員 よくわからないけれども、何となくわかったような。いいのではないですか。

○永倉委員長 60から100程度ということで、よろしいですね。

開催内容です。1時に開場して1時半から始まる。開催冒頭挨拶があって、出席者の紹介があって、第1部が基調講演が2つということですね。講演1、講演2です。講演1については「さしがや保育園のアスベストばく露について（案）」。

○長松委員 これは誰がやるのですか。

○永倉委員長 これは基本的にはお考えは。

○大川幼児保育課長 あくまでこれは基本的なプログラムとして、こういうものはどうでしょうとたたき台で御提案していますので、この名前でやるかやらないか、また、どなたにお願いするかどうかというところについては、御意見をいただければと思います。

○永倉委員長 そうですね。このあたりは内山先生などがよいのかなという気がするけれども、どうでしょうか。

長松委員、お願いします。

○長松委員 提案します。これだとほとんど座ったままになってしまうので、これは全然ラディカルに変えるのですけれども、最初に10分間で御挨拶をいただいて、第1部のところからは、基調講演がどういうのかわからない。また長谷川さんがお話ししてくださるのか、1つ何かあったほうが良いと思うのです。それがさっさとトータル30分で終わったら1回解散して、多分子供は子供、大人は大人、保護者は保護者、あと支援者というものが固まると思うので、それで中を回っていただいて、ブースをつくっておいて、永田ブース、榊原ブース、何が起こったか長谷川ブース、あと、委員長もアスベスト怖いブースのようなものを作って、自分たちで好きに子供たちと親が回れるようにしたらいかがでしょうか。

○永倉委員長 要するに、親子ミーティングの拡大版のようなイメージ。

○長松委員 これと同じことをずっと聞いていなければいけないので、勝手に仲の良い人と一緒に回って、そこで話を。もうスキップしてもいいと。

○永倉委員長 そうすると、それは第1部、第2部を通してですか。パネルディスカッションは。

○長松委員 パネルディスカッションは、それで落ちついたらお席に戻ってもらって、お茶か何かを飲みながら仲の良いもの同士座り直して、また前みたいにしゃべりたければこそそしゃべっていてもいいけれども、当時を振り返る人たちに一人一人語ってもらうのはどうなのでしょう。

○永倉委員長 では、中身はもう少し検討の余地ありということで、親子ミーティングの反省点も踏まえて作り直したほうがよりよくなる気がいたしますので、それは長松先生中心に。

○長松委員 たたき台はつくります。それで、この間毛利先生が、私たち親が言えないこ

とを言ってください。

○永倉委員長 あれはじんとききました。

○長松委員 そうです。それはほろっとくるのです。樋野先生もあの日はすごく愛があり。

○森委員 あの日は。

○長松委員 そう。私は個人的には保坂先生にお話をしてもらえたらなど。もう大人なのです。私は前々回のときに、子供が私たちにとってはずっと子供なのだけれども、子供は子供で自分の病気や運命を受けとめて乗り越えていく。本当にやってみたら、まさにそのとおりだったのです。淡々と真正面からがちっと受けとめて、本当に立派になってくれたなと思ったので、きっとお一人お一人がそういうものを持っていらっしゃるのかなと思って、そのためにも保坂ブースもつくっていただいて。ブースは無理だったら、そういうことを一言だけ語っていただけるような時間があったほうが。それで最後、今度はラッパを吹いていただけるようなので。

○永倉委員長 ここは、音は大丈夫なのですか。

○大川幼児保育課長 確認します。BGM的な機器はあるのですけれども。

○長松委員 BGMですよ。

○森委員 先に私の内容を説明します。あそこのホールでは、私はやったことはないのですけれども、実はアンプを置いて、マイクを置いて、音を出すことは基本だめらしいのです。ですが、先ほど言ったBGMではないですけれども、私の友達がやったときは、エレクトリックピアノとギターとフルートのアンサンブル的なものはやったのです。ですので、いわゆるPAで、音楽演奏はだめらしいのですけれども、基本的にそのあたりは大丈夫だという話は伝え聞いています。

私自身の今の音楽活動の中でそういうものがないかなと思ったら、たまたまなのですけれども、私自身は今、パーカッションとサックスのグループを持っていまして、それであさっても演奏をやるのです。これも音楽内容とは違うのですけれども、東大病院の重症で入院している子供たちとか、あさっていくのは中野ですが、そこも重度の子供たちの慰問訪問なので演奏ではないのですけれども、子供たちに音楽を教えながらパーカッション、ウオッシュボードなどとサックスで子供たちと一緒にやるような活動をやっているのです。それはグレードとして、演奏というよりは、みんなで楽しみましよう。低学年で、東大の附属病院などでも定期的に3カ月から4カ月に1回やっているのですけれども、それを自分自身の中でアレンジしてBGM的にやってみようかなという御提案です。

ただし、プロなので、ただではないです。そのあたりだけ。

○長松委員 大丈夫。任せて。それは集めてくるので。

○森委員 私は大丈夫なのですけれども、依頼をかけなければいけない。東大病院の中でも一応お金をいただいている部分ではあるので、そのことも含めてなので。

○長松委員 きっとあちらにひっかかったら大丈夫。お見積もりを後で。

○森委員 一応そういうようなことをやっているということは、これは御提案です。だか

ら、別にこれは隠してまで、ただで頑張っでやりますという状態ではないということも含めて御説明した形です。

以上です。

○永倉委員長 開催内容について、これはモデル的につくっていただいたということだと聞いていますので、中身についてはよいものにつり上げていく、ブラッシュアップしていくということで。どうでしょうか。幾つか案をそれぞれ思いついたものがあつたら、区の方にメールすると混乱してしまうかな。

○長松委員 では、今月中にたたき台を出して、長松案を出します。

○永倉委員長 ぜひよろしくお願ひいたします。

そんなことを基本にして、もう一度再調整をしていただくということで、開催内容についてはよろしくお願ひします。

裏面に行きまして、報告書であります。シンポジウムの記録として、当日の様子や講演内容をデータ化し、報告書にまとめる。これはいいですね。

どういう形にするかということはあるかと思ひます。後で見やすい冊子にするかどうかというような、そのような御意見があれば、また検討と。しかし、その場合には予算がまたついてくるのでしょうか。しかし、報告書として誰でも見られる状態のほうがいい気がします。今回の子供たちに伝えるという趣旨からしても、ほかの人も参考にできるようなものができれば非常にいいと思ひますので、これもできればかちつとした報告書にするという方向で検討していただくということで。

それと、最終的なところで経費、予算費目ですけれども、会場使用料、謝礼(交通費含)、会場設営費、印刷関係費、物品購入費とありますが、こんなものでしょうか。これだと少し足りないということがあつたら。具体的には9月から10月ごろ予算を計上されるということですか。

○大川幼児保育課長 来年度予算の要求です。

○永倉委員長 だから、それまでに大枠が決まればよいのだと思ひますけれども、このあたりの具体的な数字は文京区さんはもう既に大体わかっているという趣旨ですか。会場使用料などはわかりますね。

○大川幼児保育課長 そうですね。あとは一般的な周知の経費ですね。チラシ、ポスター、また、各108名の方にする案内、郵送費など、そういったところになってくるのかなと思ひます。

会場の実際の当日の運営については、基調講演を入れるのであれば、そういった方への謝礼というところ、あとは若干の会場設営というところだと思ひますので、ここから大きく外れることはないのかなとはこちらとしては想定はしているのですけれども。

○永倉委員長 この印刷関係費ですけれども、これは広報の部分も入るということですか。

○大川幼児保育課長 入ります。

○永倉委員長 そうすると、当日の配付資料のようなものがあればそれと、広報が結構大

事なのだと思うのです。何度か繰り返して御連絡を差し上げるとか、そういうことをしないとなかなか集まらないかなという気もします。このところもまた検討課題として、広報をどうするかというのは私のほうでも考えたいと思うのですけれども、経費については大体このぐらいの費目で十分ということによろしいでしょうか。

全体にわたって、何か御質問や御意見などありますでしょうか。

どなたをお呼びするかということは、まだはっきりとは決まっていないですね。お呼びする歴代の専門委員さんについてはどうしましょうか。リスト化して。

○長松委員 リストをきょう持ってきていただけるといいと前回申し上げたのですけれども、ないですね。

○永倉委員長 リストまではきょうはできていないですかね。まだできていない。

○長松委員 私はよく覚えていないのですけれども、内山さん、名取さん、西田さん、古谷さん、安達さん、あと、ひまわり診療所の平野さん。

○永倉委員長 その辺は呼び寄せて。

○長松委員 最初から見ていてくれた方たち、あとは誰が。クリスチャンの中央会堂幼稚園にいるおじいさんで、風でほこりが飛んでくるのをやっていた人。

○永倉委員長 思い出した。あの先生は室内曝露ですね。名前が出てこないのですけれども。

○長松委員 そんなものでしょうか。遠いのは内山先生。しかし、安達先生も遠い。

○永倉委員長 何人お呼びするかということもあるのですけれども、その先生方にはパネルディスカッションという形で並んでいただいて、当時のことをお話しただくというようなことによろしいのですか。基調講演はまた別途。

○長松委員 基調講演はなくてよいのではないですか。

○永倉委員長 文京区さんから、事務局のほうからの経過はあってもいいと思うので、そのくらいでもよいのかもしれない。

○長松委員 あれをまたバージョンアップして。

○永倉委員長 そうですね。余り講演講演しないほうがよいかもしれないですね。

○長松委員 そう思いました。

○永倉委員長 わかりました。その辺の案も含めて、また練っていただければと思います。

また少し時間がたつといろいろなアイデアが湧いてくるかもしれませんので、御意見があればよろしく願いいたします。

では、次に進みたいと思います。次第の3の協定書の名義変更について、事務局から御説明をよろしく願いいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、資料第7号に基づきまして説明いたします。

事前にお送りいたしました資料のところに（案）がついておりませんでしたので、今回お配りさせていただいたところには（案）という形でつけさせていただいております。

概要としましては、曝露から18年が経過いたしまして、成人を迎えた元園児たちもいる

ということで、協定書の名義を法定代理人から元園児本人の名義に変更したいとの要望をいただいております。そこで、希望者の申し出に基づきまして法定代理人である保護者から元園児本人へ名義を変更するという形でございます。

名義変更の協定ということで、今、あります締結している協定の効力には全く影響はないというところの状況で手続を進めていきたいと考えております。こちらはあくまでイメージ図というところで受けとめていただければと思います。

今後の手続につきましても、具体的な周知方法については今後検討していきたいと思っております。

こちらにつきましては、今後具体的な名義変更の形式的な部分、そうしたところについてもしっかりと詰めていきたいと考えておりますし、また、ここでの部分、シンポジウムと名義変更については、今後具体的な手続、事業を進めるに当たって区長にも情報提供をしながら進めていきたいと思っておりますので、こういった方向性だということで今回はお受けとめいただければと思います。そこら辺も含めて次回のところでもう少し詳しく御提示できればと思っております。

説明は以上です。

○永倉委員長 ありがとうございます。

29年度末ということですから、来年の3月頃までには御案内をいただける内容と理解してよろしいですか。

○大川幼児保育課長 シンポジウム開催という通知を出しますので、そことあわせて、この名義変更について委員会としてこういったことを行いますといった御案内のような形で、一緒に周知したほうがよいのかなとこちらとしては考えたのです。

○永倉委員長 この辺のことについてはどうでしょうか。何か御意見はございますか。

○長松委員 いつ書きかえることができそうなのでしょう。

○大川幼児保育課長 想定しているのは、新年度に入ってから。できれば、例えばシンポジウムの時期に、もし参加される方でこれをやりたいという方であればその辺にあわせてといったことも一つの案かなとは思っておりますし、当然参加できないとか、いろいろなところがあります。まだ成人になられていないところもあれば、それは随時こちらの御連絡もいただきながらという形だと思うのですが、一つのきっかけとしては同じぐらいの時期のほうがよいのかなとは思ったのです。

○長松委員 私はそれで、思ったより早いので、来年の例えば7月以降できるのでシンポジウムのときにもできますというのは、来てくれるかもしれないですし。

○永倉委員長 そうですね。成人になられている方からというところにはなるかと思いますが。

○長松委員 わかりました。よいと思います。

○永倉委員長 来年のシンポジウムのときに案内は別にしたほうがよいでしょうか。一緒でもよいですかね。

○長松委員 一緒に2枚組みで。その前に今年度のニュースレターを出しますので、来年度できるというのでもう一度アナウンスしたほうがいいと思います。

○永倉委員長 そうですね。そのような案内がありますよという。

○大川幼児保育課長 ニュースレターの原稿をつくる段階までにはもう少し詳しく、次の会も11月頃を想定しておりますので。

○永倉委員長 わかりました。そちらは着々と進んでいると理解したいと思います。

次、次第4のその他ということですが、全体にわたって何か御質問、御意見等がありましたら。

東委員、お願いします。

○東委員 これは随時になるわけですか。このシンポジウム以降の年度から、ずっと随時受付という形になるのですか。それとも、何かのタイミングごとにとという形ですか。

○大川幼児保育課長 なかなか連絡をとれているわけではないので、いろいろと趣旨の説明と周知をした後で御希望があればという形になろうかと思えます。だから、随時にするか、いつまでにするか、いろいろともうちょっと細かく詰めなければいけないかなとは思っております。

○東委員 まずはこのときの状況を踏まえてということですかね。わかりました。

今、連絡をとれない方はどれぐらいの割合いらっしゃるのですか。全対象者が百数名ぐらいでしたか。

○永倉委員長 たしか108対象者でしたね。

○大川幼児保育課長 今のところ、完全に海外に行かれてしまっている方が5名程度いるとは把握しておるのですけれども、あとの方はとりあえず住所等は。

○東委員 まだ連絡はとれそうですか。わかりました。ありがとうございます。

○永倉委員長 ほかにございますか。

保坂委員、お願いします。

○保坂委員 このシンポジウムの内容ですけれども、区民の啓蒙ということを少し入れるのならば、アスベストの講演は入っていないといけないのではないかと思うのですが。

○永倉委員長 そうですね。

○大川幼児保育課長 基調講演とかパネルディスカッションでないと、シンポジウムという名称がまた少し変わってくるかなというのは、今、受けていてちょっと思ったものから。

○永倉委員長 そうですね。さしがや以外の全般的な状況もどこかで説明する必要がありますね。

○長松委員 委員長ではない人の話も聞きたくなりました。

○森委員 あと、アスベストに特化したというよりもリスクアセスメントというような総合的なところを本人は考えているようだから、もちろん津波、災害のところまで。

あしたから妻も大船渡にボランティアで行って、私もその後に福島の方に、ボランテ

ィアだけではなくて演奏活動も含めたそういうものにも参加しているのです。そこで、アスベストに特化したというよりも、現状これから起こることに備えるということも多少入れていただけると、もっと興味を持つのではないかと。

もちろん、文京区のアザードマップのようなところまで、資料としてあるくらいでも構わないですけども、アスベストということではなくて、今やっている工事のことなども、現状こういう対策をしているといったことがある程度あると、内山先生のお話など、現状も含めてのようなところはぜひ織り込んでいただきたいのです。

先ほど言ったブースに分けてというところもあるし、説明が長いというところも含めて、説明を全部最初から最後まで読むのではなくて、ある程度そういった資料を見て、知らない人はそちらへ参加するといったことにしていく。総合的なリスクのようなところをフィーチャーしていただけると私はありがたいなど。

○長松委員 この切り口はアスベストで、そこも知ってほしいけれども、それだけではなくて、アスベストのことをきっかけに次のことも私たちは学んで前へ進んでいくということを手前に話せる人は誰でしょう。

保坂先生、いかがでしょうか。

○永倉委員長 なるほど。内山先生だろうか。

○森委員 そうですね。

○長松委員 内山先生の話もやや難しくて。

○森委員 でも、築地の問題でも今、やっていらっしゃるみたいですから。

○長松委員 愛がありますね。森さんの奥様も上手でいらっしゃいますけれども。

○森委員 自分に来た場合にどうやって備えるかといったところが、どうもうちの家庭のスタートラインのようですので。

○永倉委員長 いずれにしても区民に対する啓蒙というところを入れると、地震に対する備えなども入るかもしれませんけれども、そういう話があったほうがいいですね。それを前半に入れて、一般の区民の方が来ると、さしがやの人たちだけがまとまっても疎外感があるかもしれないし、そのところは難しいですね。どう組むか。それもちょっと考えていただいて。

○長松委員 対談みたいなものも楽しそうですね。

○永倉委員長 そうなると、どちらにするかしかないのでしょうか。

○森委員 関係ない話かもしれませんが、「クローズアップ現代+」でされていて、名取先生がいられていたけれども、あのときの曝露した子供というフィーチャーで、あのような説明のされ方とか、あのようなフィーチャーのされ方は、私はおよそ信じられなかったというか、何もコメントをしなくてただ子供を映すだけのようなことになるので、そのような見方をされない会にする。

○永倉委員長 そうですね。それは大事だと思います。

○森委員 本人は了承しているとはいえ、私自身はあのNHKの番組自身に違和感がありまし

た。だから、そのようにならないようにしたほうがよい。

○長松委員 そうならないようにしましょう。大丈夫。そんなのはぶち壊すから。

○永倉委員長 そのこのところも含めて、区民に対するメッセージもきちんと伝えられる内容、かつリスク全般に対する話もそこに含めていくような内容にしていく。なかなか難しそうな気がするのですが。

○長松委員 あとは内山先生が短く話せるか。普通、先生の講演は50分とかだと思うのですけれども、そんなものをしてたら帰ってしまうか寝てしまうかなので。

○森委員 ですので、先ほども言ったように資料として置いておいて、それは内山先生にお任せして、それを全部最初から最後までしゃべるのではないというような、ダイジェストにさせていただけるのか、その辺は。

○永倉委員長 時間を限ってこのくらいでぜひお願いしますという御依頼をしていただければ。

○長松委員 そうですね。易しくと言ったらやったださりそうな気がします。

○永倉委員長 いけるのではないのでしょうか。

わかりました。その内容については意見がいろいろ出る気がいたしますので、またメールのやりとり等で詰めていければと思います。

場合によっては、長松さんや何人かの保護者の方と私とでまた文京区に来て、こんな意見、あんな意見でもいいと思うのですが。

これはいろいろ決めることがまだありそうな気がするのですけれども、これは次回ということが今回の議題には入っていないのですが、割と近いところで1回入れたほうがいいのか。

文京区として、予算の関係で言うと9月くらいまでにはある程度固まったほうがいいのか。そこまでは必要がない。

○大川幼児保育課長 ある程度の概要、中身は。

○永倉委員長 依頼する先生方の謝礼などという話もあるのでしょうか。

○大川幼児保育課長 まるっきり変わってしまうと厳しいです。

○永倉委員長 わかりました。では、その辺の調整も。

○森委員 先ほども言ったように、今までかかわっていた委員の方、ぜひ資料で。私たちも忘れて、名前を言われればぜひお願いをしたいという方が、きょうはわからないですけれども。

○長松委員 記憶がね。

○森委員 記憶だけですから、今までどういう方が委員をされていたかを私も確認したい。それで、また内山先生だけではなくてお話をぜひしていただきたい方がいらっしゃるかもしれない。

○長松委員 来られない方もいらっしゃるでしょうから、その方々にはメッセージをもらって、それをまとめて報告書にするのがよろしいかと思えます。

○永倉委員長 わかりました。いろいろ案が出ましたので、後で漏れのなきように取りまとめさせていただきます。

シンポジウムの内容の御意見だけではなくて、それ以外に何かまた御意見があるようでしたらお願いします。よろしいでしょうか。

東委員、お願いします。

○東委員 直接この委員会と関係はないのですが、来年、私のほうで日本衛生学会というところでシンポジウムを開催しようと思っています。学会の中でのシンポジウムなのですが、東京工科大学とあって、蒲田のほうのキャンパスで来年3月にあるのですが、アスベストのシンポジウムを開催しようと思っています。

今まで樋野先生なども産業衛生学会系で、労働者を対象としたアスベストのシンポジウムは結構多いのですが、今回の一般の方々が曝露するという事例のシンポジウムは余りないので、いわゆる学術的なシンポジウムという意味なのですが。

その際、文京区さんの健康リスク評価の事例について、実は先ほどから出ている内山先生に御講演をいただくことにしてしまして、ほかにも私が担当している大阪の高校のほうの事例などを取り上げたり、永倉先生にも昨今の建築物での飛散事故に関する状況など、今後の課題などをお話しいただいたりというのを、来年3月にする予定にしています。

ですから、文京区さんの事例について、内山先生から学術的な立場ということで少しお話をいただくことをお願いしようと思っ、一応、もう了承はいただいているのですが、その点の御報告をさせていただきたいと思っ、お話をさせていただきました。

学会ですので、参加するのは非会員の方でも参加できますので、3月23日か3月24日のいずれかに予定をしまして、まだどの日になるのかは決まらないのですが、秋ぐらいに決まるかと思うのですが、23日か24日のいずれかです。2時間程度のシンポジウムなのですが、主には学術的なお話を、学会の会員が医学系の方々ばかりですので、そういった方々に、特に公衆衛生を担当されているの方々ですので、これから学術的あるいは社会的に、規制などを含めてどうしていくかというところを議論、あるいは学会の方々に周知していただくという目的にしています。今回のシンポジウムの目的とはちょっと違うのですが、そういう場を設けるということで御了解をいただければと思っています。

文京区さんのほうなのですが、例えば今まで公開されている報告書の中身に基っ、お話をいただく予定ですので、それ以外のことはないと思っ、のですが、何か問題等があればまた教えていただけたらと思っ、ます。何か手続などは必要ですか。公開された情報だけにはなるのですが、

○永倉委員長 内山先生がそこで学会報告をされるということで、そのダイジェスト版か何かをぜひ御紹介いただければ非常にありがたいかなと。

○東委員 そうですね。ただ、あくまで専門向けにお話をされると思っ、ますので、今回の場合ですと一般の方々や対象者の方々になりますので、もっとかみ砕いてお話をいただくほうがいいかと思っ、ます。中身は随分変わるとは思っ、ます。一旦そこでまとめ

ていらっしゃると、多分ここでお話しされる時も比較的そしゃくしてお話しされやすくなるかと思います。

○永倉委員長 その辺をぜひ内山先生にお願いできればと思いますので、またよろしく御連絡をお願いいたします。

あと、何か御意見はありますでしょうか。

特にないようでしたら、きょうは終わりにさせていただきたいと思います。またいろいろと今後やることが皆さん出てくるとと思いますので、よろしくお願いいたします。

きょうはどうも御苦労さまでした。ありがとうございます。